

人間生活学科

人間心理コース

2年

科目名	臨床心理学	ナンバリング	HP24-PC-04-2
担当者氏名	高田 晃治		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-97 (知識・技能)心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。 ○ A13-110 (主体性・多様性・協調性)人間関係や対人援助について学修したことを、社会の中で実践する姿勢を身につけている。		

《授業の概要》

臨床心理学は何よりも実践的な心理学である。心理臨床の現場は人と人との出会いの中にあり、関係性の中で経験が積み重ねられ、新たな発見が生まれ続ける。本講義では臨床心理学の諸理論および心理臨床の実践を紹介すると共に、人間を理解すること、困難を抱えながらも自分らしく生きていくこと、人格の成長と成熟といったことについても考えていきたい。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①臨床心理学の基礎的な理論と概念について説明できる。
- ②心理的な問題を理解する基本的な視点を学修している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
 事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

- ①レポート 70%
 - ②講義中の提出物 30%
- 《課題へのフィードバックの方法》
 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：臨床心理学とは？	臨床心理学および臨床心理行為について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	臨床心理学の理論(1)：精神分析学	精神分析学の基本的な考え方や諸概念を学修する。
3	臨床心理学の理論(2)：分析心理学	分析心理学（ユング心理学）の基本的な考え方や諸概念を学修する。
4	臨床心理学の理論(3)：認知行動療法	認知行動療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
5	臨床心理学の理論(4)：人間中心アプローチ	人間中心アプローチ、クライエント中心療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
6	臨床心理学の理論(5)：様々な心理療法	森田療法、内観療法、動作法といった心理療法の基本的な考え方や実践について紹介する。
7	臨床心理アセスメント	臨床心理アセスメントの意義、方法等について学修する。
8	子どもの心の問題	子どもに生じやすい心身や行動の問題について学修する。
9	思春期・青年期の心の問題	思春期・青年期において生じやすい心身や行動の問題について学修する。
10	臨床心理学的理解と支援(1)：発達障害	発達障害の種類や特徴、理解と支援に必要な観点を学ぶ。
11	臨床心理学的理解と支援(2)：神経症	「神経症」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
12	臨床心理学的理解と支援(3)：パーソナリティ障害	「パーソナリティ障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
13	臨床心理学的理解と支援(4)：精神障害	「精神障害」について、統合失調症を中心に概説し、理解を深め、支援の事例について学ぶ。
14	臨床心理学的理解と支援(5)：「うつ」について	「うつ」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
15	臨床心理学的理解と支援(6)：高次脳機能障害	「高次脳機能障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。

科目名	基礎心理学特講Ⅱ		ナンバリング	HP24-PC-10-1	
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A11-97 (知識・技能)心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。 ○ A12-103 (思考力・判断力・表現力)自分自身や他者の心理や行動について理解し、ことばで説明できる。			

《授業の概要》

本授業では、「基礎心理学特講Ⅰ」に引き続き、基礎心理学の諸領域のうち、発達心理学、パーソナリティ心理学、教育心理学、適応心理学、心理検査学について基本的な事柄を学ぶ。なお、本授業は文部科学省後援検定試験「こころ検定3級」の内容に準じて講義する。

《テキスト》

メンタルケア学会 (監修) 「こころ検定3級 公式テキスト」 (教育ナビゲーション)

《参考図書》

メンタルケア学会 (監修) 「こころ検定3級 対策問題集」 (教育ナビゲーション)

《授業の到達目標》

- ①基礎心理学の諸領域に関する基本的な知識を習得し、説明することができる。
- ②身近に生じる心理学的な現象について関心を持ち、理解しようとする視点を身につける。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、テキストを読んでおくこと (20分程度)。
 事後学修：授業で学んだことをもとに発展的に自学自習すること (20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①学期末試験 70%
 - ②授業後の課題 30%
- 《試験のフィードバックの方法》
 期末試験後、解説を行う (試験60分、解説30分)。課題については学習ポートフォリオを介してフィードバックする。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	発達心理学①	発達心理学について概観する。子どもの発達について学ぶ。
2	発達心理学②	青年期～成人期の発達について学ぶ。
3	発達心理学③	成人期～高齢期の発達について学ぶ。
4	パーソナリティ心理学①	パーソナリティ心理学について概観する。
5	パーソナリティ心理学②	パーソナリティの測定法について学ぶ。
6	パーソナリティ心理学③	パーソナリティとこころの関係について学ぶ。
7	教育心理学①	教育心理学について概観する。
8	教育心理学②	教授法や指導法について学ぶ。
9	教育心理学③	学校で生じる諸問題を心理学の視点から検討する。
10	ストレスと適応①	適応と不適応、ストレスとこころの関係について学ぶ。
11	ストレスと適応②	ストレスの測定法について学ぶ。
12	ストレスと適応③	ストレスマネジメントについて学ぶ。
13	心理検査学①	心理検査学について概観する。
14	心理検査学②	心理面を測定する方法について学ぶ。
15	心理検査学③	様々な心理検査の活用について学ぶ。

科目名	子どもの福祉と子育て支援		ナンバリング	HP24-MC-10-3
担当者氏名	高田 晃治			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 ◎ A13-110 (主体性・多様性・協調性)人間関係や対人援助について学修したことを、社会の中で実践する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

今や超少子化国といわれる日本。マスコミでも子育て支援や少子化対策を求める声の盛んである。この授業では、現代の子ども及び子育てをする親、さらに地域社会を取り巻く諸問題を検討し、子どもの健康な発達と福祉のありようを考えていきたい。

《テキスト》

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)「最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 第2版」(中央法規)

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①子ども家庭福祉の理念と意義を理解している。
- ②現代の社会背景、環境における子どもの発達と家族のありようを理解している。
- ③子ども家庭福祉に関する法や制度を理解している。
- ④子ども家庭福祉に関わる専門職や支援サービスについて理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること(20分程度)。
 事後学修：テキスト、参考書ならびに授業で紹介された資料等をもとに発展的に自学自習すること(20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①レポート 70%
 - ②講義中の提出物 30%
- 《課題へのフィードバックの方法》
 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	子ども家庭福祉とは何か	子どもの権利に関する基本的な考えを学習する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	子どもと家庭・地域	家庭・保護者支援の重要性やウェルビーイングについて学ぶ。
3	子ども家庭福祉の歴史	今日の子ども家庭福祉に至る歴史の変遷を学ぶ。
4	子ども家庭を取り巻く現代社会	今日の子ども家庭を取り巻く社会環境について学ぶ。
5	子ども家庭福祉の法体系	子ども家庭福祉にかかわる法律や実施体制等について学ぶ。
6	子ども家庭福祉にかかわる関係機関、人材	子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設や専門職等について学ぶ。
7	子ども・子育て支援制度	子ども・子育て支援施策の概要を学ぶ。
8	母子保健・保育	母子保健や保育制度等の概要を学ぶ。
9	児童虐待と社会的養護	児童虐待にかかわる諸問題と社会的養護について学ぶ。
10	ひとり親家庭・女性支援	ひとり親家庭への支援や、DVへの対応、女性福祉等について学ぶ。
11	少年・若者支援	スクールソーシャルワーク、非行少年への支援、若者支援等の概要について学ぶ。
12	障がいのある子どもへの支援	障がいのある子どもや家庭への支援について学ぶ。
13	子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク	子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの概要を学ぶ。
14	子ども家庭福祉におけるアセスメント	子ども家庭福祉におけるアセスメントの概要を学ぶ。
15	子ども家庭福祉における実践	子ども家庭福祉の諸領域における実践事例について学ぶ

科目名	手話	ナンバリング	HP24-MC-11-1
担当者氏名	野地 智子、本田 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input type="radio"/> A11-94 (知識・技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input type="radio"/> A12-104 (思考力・判断力・表現力) 相手や状況に応じて、言語的および非言語的コミュニケーション技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A13-109 (主体性・多様性・協調性) 人のことばに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、一人ひとりに誠実に向き合う態度を身につけている。		

《授業の概要》

聴覚障害＝耳が聞こえないあるいは聞こえにくい、という事は一体どのような事なのでしょうか。聴覚障害は外見で分かる障害ではないため、その障壁(コミュニケーション障害・情報障害)の深刻さがなかなか理解されません。聴覚障害者(特にろう者)が使用する魅力ある言語＝「手話」を学ぶことで、手話で会話する楽しさを知り、全般的なコミュニケーションについて考えるきっかけを作りたい。

《テキスト》

聞こえない人とのコミュニケーション(手話編) 広島県ろうあ連盟発行

《参考図書》

講義中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ①手話を使って自己紹介ができる。
- ②手話で簡単な会話ができる。
- ③耳のしくみや聴覚障害の原因を知り、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解している。
- ④日本の手話の歴史及び特徴を理解している。
- ⑤聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修・手話に関する映画やテレビ、または動画などを見て手話のスピードに慣れること。(30分)
 事後学修・「手話での会話を楽しむ」気持ちで授業に臨む。・授業でお知らせする地域の手話サークルや地域のろうあ協会の行事に積極的に参加する。手話検定試験などにも挑戦して、各自の手話力・対話力を高めること(60分)

《成績評価の方法》

1. 試験 (50%)
 2. レポート (30%)
 3. 手話実技 (20%)
- 《フィードバックの方法》
 (試験60分 解説30分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	手話とは? (手話言語と音声言語との違い)	実習: 伝えてみましょう ~手話のオリエンテーション 自分の名前の手話表現を覚えよう
2	聞こえない人との接し方/テキスト手話編~	実習: 自己紹介をしましょう 名前の表し方 ~名前の表し方 指文字あ行~さ行 表現の語源は・・・ 数字1~99
3	聞こえない人達との意思疎通の方法	実習: 自己紹介をしましょう ~挨拶の手話 指文字た行~は行 表情 数字100~10,000
4	聴覚障害者の生活 (家族・子育て)	実習: 自己紹介をしましょう ~家族の紹介 指文字ま行~ん 指の代理的表現 数字・月日・時間の表現
5	メッセージを伝えるという事	実習: 自己紹介をしましょう ~ 趣味の表現 指文字 しりとり・国名 コミュニケーションしてみよう
6	聴覚障害者の生活 (地域)	実習: 自己紹介をしましょう ~仕事の表現 数字: 金額の表現
7	聴覚障害者の生活 (地域)	実習: 自己紹介をしましょう ~住所の表現 県名・市町村名
8	聴覚障害者の日常生活用具	実習: 表現の工夫をしましょう ~時の流れの表現 一日・一週間・一ヶ月
9	ろう者と手話の歴史	実習: 表現の工夫をしましょう ~時の流れの表現 一年間・四季の表現
10	ろう者と話そう Q&A	実習: 手話で話そう ~旅行の話をしてみましょう
11	手話の地域性・国際性	実習: 手話で話そう ~学校のことを話してみましょう
12	聴覚障害者の生活 (病院・老後)	実習: 手話で話そう ~健康・病気のことを話してみましょう
13	手話を使ってフリートーク	実習: トータルコミュニケーション ~応用してみよう よく使う単語・反対語
14	手話通訳士の体験から	実習: トータルコミュニケーション ~手話での会話練習 医療 自己紹介のまとめ
15	まとめ	実習: 会話を楽しむ ~習った手話・覚えている手話を使って会話をしましょう

科目名	秘書実務演習	ナンバリング	HP24-BP-04-3
担当者氏名	金岡 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A11-94 (知識・技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ◎ A12-100 (思考力・判断力・表現力) 獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。		

《授業の概要》

「秘書実務総論」に引き続き開講される授業であり、秘書の職能と資質について学んだ知識に加え、社会人として必要なビジネスの知識とマナーを実践演習を通して理解し、活用できる能力を身につける。また、秘書業務に求められる必要な知識・技能をビジネスの現場で活用することができる。

《授業の到達目標》

- ① 秘書の職能と資質を理解し、活用する。
- ② 敬語を正しく使い、挨拶とお辞儀が実践できる。
- ③ 社会人として必要なビジネスの基礎を理解し、実践できる。
- ④ マナーや仕事の流れを理解し、仕事で実践できる。

《成績評価の方法》

1. 演習課題の実践（応対・マナー・提出物）50%
2. 授業への参加度（ループリック評価）・小テスト 30%
3. 期末テスト 20%

《フィードバックの方法》

課題や小テストについては解説の時間を設ける。

《テキスト》

実務技能検定協会編「新秘書特講-秘書検定で学ぶオフィスの常識と心構え-」早稲田出版

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定 公式テキスト」2級 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「秘書検定 実問題集」3級・2級・準1級 早稲田教育出版
 実務技能検定協会「秘書検定パーフェクトマスター2級」

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習の必要性、内容について目を通しておくこと。(10分程度)
 事後学修：毎回実施する接遇の実技問題を、添削箇所を確認し、復習する(15分程度)

《備考》

・積極的にアクティブラーニングに参加すること。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	秘書業務についての復習
2	秘書業務	言葉遣いの復習と実習 グループワーク
3	秘書業務	スケジューリングについて スケジュール管理とタイムマネジメント
4	秘書業務	コミュニケーションについて 上司とのコミュニケーションと職場での双方向コミュニケーション
5	秘書業務	仕事における効率的なコミュニケーション グループワーク
6	応対業務	来客応対（受付・応対業務の流れ） グループワーク
7	応対業務	電話応対（受け方・かけ方）の応用1 グループワーク
8	応対業務	電話応対（受け方・かけ方・メモの取り方・伝言の仕方）の応用2 グループワーク
9	慶弔業務	慶事・弔事の流れと具体的な仕事 グループワーク
10	慶弔業務	祝儀・不祝儀袋の知識と書き方 演習課題
11	ビジネス文書	社内文書・社外文書の書き方 演習課題
12	ビジネス文書	社交文書とファイリング・情報管理 演習課題
13	秘書の仕事	社会の変化と業務についてのまとめ 演習課題
14	秘書の仕事	信頼される秘書業務の進め方とまとめ 演習課題
15	まとめ	秘書の役割と業務についての総復習（学生、教員によるループリック評価）と まとめ小テスト

科目名	ビジネス英語	ナンバリング	HP24-BP-09-2
担当者氏名	福田 順		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。		

《授業の概要》

毎回の講義の前半では医療現場を舞台にしたstoryのDVDを視聴し、場面に応じて使用されるwordsやphraseを学んでいきます。講義後半では、storyに関連した設問に回答することによって理解度の確認を行います。これらの作業を通して自分の苦手な分野を自覚し、克服できるように学習していきます。

《テキスト》

テキストは使用せず、毎回講義資料（紙媒体）を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

- ①医療現場で使われる英単語が身近に感じられるようになる。
- ②医療現場で交わされる簡単な会話ができるようになる。
- ③人々は住む場所や文化によって、考え方やコミュニケーションが異なること、またその相違点について理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：毎回の講義終了時に、次回講義までに調べておくことを提示します。
 事後学修（20分）：印象に残った単語やフレーズを暗唱できるように練習する。

《成績評価の方法》

- 1. コメントシート 20%
- 2. 中間試験 30%
- 3. 期末試験 50%

《備考》

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス 医療現場での英語使用について	授業の進め方、勉強方法、成績評価について説明する。医療現場において、実際にどのような場面で英語が必要なのかを考えてみる。
2	DVD①前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
3	DVD①後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
4	DVD②前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
5	DVD②後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
6	DVD③前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
7	DVD③後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
8	中間試験	中間試験（筆記）と解説
9	DVD④前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
10	DVD④後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
11	DVD⑤前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
12	DVD⑤後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
13	DVD⑥前半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
14	DVD⑥後半	DVD視聴後、内容確認小テストによってlistening力を確認する。内容に関するdiscussionを行う。
15	医療現場で役立つ英単語やフレーズ	医療現場で役に立ちそうな英語表現について考え、discussionを行う。

科目名	電子会計実務基礎		ナンバリング	HP24-BP-12-2
担当者氏名	吉田 智子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。		

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験3級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験3級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定中級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験 60%
 - ②平常点 (質問、小テスト、宿題を含む) 40%
- 《課題へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「コンピューター会計 基本テキスト」 (実教出版)

《参考図書》

弥生株式会社著「コンピューター会計 初級テキスト・問題集」 (実教出版)
 弥生株式会社著「コンピューター会計 基本問題集」 (実教出版)

《授業時間外学修》

事前学修 (10分) : 事前にテキストに目を通しておくこと。
 事後学修 (60分) : テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	企業活動と会計処理(1)	企業の経営活動と利益の計算
3	企業活動と会計処理(2)	会計処理の基本
4	会計ソフトの操作(1)	コンピューターの関連知識、会計ソフトのインストール
5	会計ソフトの操作(2)	会計データの入力
6	会計ソフトの操作(3)	振替伝票による入力練習
7	企業の業務と会計処理(1)	現金預金についての会計処理
8	企業の業務と会計処理(2)	仕入についての会計処理、売上についての会計処理
9	企業の業務と会計処理(3)	経費についての会計処理
10	企業の業務と会計処理(4)	その他の債権・債務についての会計処理
11	企業の業務と会計処理(5)	給与についての会計処理、企業が関係する税金
12	企業の業務と会計処理(6)	証ひょうにもとづく起票とデータ入力
13	会計データの入力処理と集計	証ひょうによるデータ入力、残高のチェック
14	会計情報の活用(1)	会計データの集計と活用
15	会計情報の活用(2)	月次決算の会計処理

科目名	ウェブデザイン基礎		ナンバリング	HP24-DP-08-2	
担当者氏名	鵜根 弘行				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。			

《授業の概要》

本講義では、Webサイトの制作に必要な知識と技能の習得を目指す。具体的にはWebサーバーとWebブラウザの役割、HTMLによる文書の作成、CSSによる文書の修飾と整形を行う技術身につける。このほかXAMPPというソフトウェアを用いて、Webサーバーの運用に係る演習も行う。

《テキスト》

講義中に資料を配布する。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業の到達目標》

- ①Webサーバーの設定方法について説明できる。
- ②文書作成に必要なHTMLのタグを適切に選択、使用できる。
- ③CSSを使った文書の就職や整形を行える。

《授業時間外学修》

事前学修：事前により教科書を予習すること。(20分程度)
 事後学修：講義中の演習内容をもう一度確認すること。(20分程度)

《成績評価の方法》

課題提出：40% (ループリックによる評価)
 期末課題：60% (ループリックによる評価)
 《学生へのフィードバック方法》
 課題提出後に検討会を行う。

《備考》

本講義では受講生自身のノートパソコンで演習を行う。原則として対面形式で実施するが、状況によっては遠隔講義形式に切り替える可能性がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	WWW(World Wide Web)の概要、XAMPPのインストール、Webサーバーの動作解説
2	HTMLの概略	文書構造の解説、HTML文書作成演習
3	基本的な文書タグ	段落や箇条書きを規定するタグの解説と演習
4	ハイパーリンク	他の文書への関連付け、文書内でのナビゲーションの解説と演習
5	見出しに関するタグ	文章の構造(章節の見出しなど)を規定するタグの解説と演習
6	表に関するタグ	表の作成に用いるタグの解説と演習
7	divタグによるグルーピング	Webサイトの大まかなレイアウトを行う方法の解説と演習
8	画像の貼り付け	imgタグによる画像の貼り付けを行う方法の解説と演習
9	CSSの概略	CSSの目的に関する解説
10	文字の修飾	段落や箇条書きの文字色、文字サイズの設定を行う方法の解説と演習
11	CSSセレクター	セレクターを利用した文字色などの一括設定を行う方法の解説と演習
12	レイアウト設定	ページ全体、あるいはdivタグで作成したブロックのレイアウトを調整する方法の解説と演習
13	ウェブサイト作成演習(1)	最終課題となるウェブサイトのテーマ決定
14	ウェブサイト作成演習(2)	最終課題となるウェブサイトの作成
15	ウェブサイト作成演習(3)	最終課題となるウェブサイトの発表と講評

科目名	情報管理特論 I	ナンバリング	HP24-AM-01-4
担当者氏名	鵜根 弘行		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修 開講年次・開講期 2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。		

《授業の概要》

本講義は情報管理特論Ⅱと連動して、本学で学んだ情報技術を利用した作品の制作、ならびにプレゼンテーションについて学修する。制作する作品は基本的にWebページを想定しているが、チャレンジしてみたい課題があれば、内容に応じて指導する。

《テキスト》

必要に応じて配布する。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業の到達目標》

- ①課題制作に使用するシステムの特徴を理解し、活用できる
- ②課題制作に使用するプログラム言語の特徴を理解し、活用できる
- ③課題の制作手法について理解し、活用できる

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集を行う。
(課題ごとに30分程度)
事後学修：必要に応じて、授業時間中に完了しなかった作業を行う。(30分～2時間程度)

《成績評価の方法》

- ①課題提出 40% (ルーブリックによる評価)
 - ②期末発表 60% (ルーブリックによる評価)
- 《学生へのフィードバック方法》
期末発表後に検討会を行う。
講義中に出题した課題等は、原則として時間内に解説する。

《備考》

この講義を受講する場合、情報管理特論Ⅱも履修しなくてはならない。原則として対面形式で実施するが、状況によっては遠隔講義形式に変更する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	本講義の概略を開講
2	課題の検討(1)	興味のある分野の列挙と分析
3	課題の検討(2)	ブレインストーミングなどを用いた課題の方向性の模索
4	問題解決技術の調査(1)	作品制作に使用するシステム(ハードウェア)に関する調査
5	問題解決技術の調査(2)	作品制作に利用するソフトウェアに関する調査
6	問題解決技術の調査(3)	作品制作に利用するプログラム言語に関する調査
7	中間発表	調査結果に関するまとめ、および作品制作の方針に関するプレゼンテーション
8	設計(1)	作品の完成予想図の作成
9	設計(2)	作品に必要な要素、機能の分類(重要度、優先度の決定)
10	設計(3)	制作した作品の具体的な利用方法の列挙と、設計の妥当性検証
11	プロトタイプ制作(1)	プロトタイプの概略を制作
12	プロトタイプ制作(2)	プロトタイプの中心部分を試作
13	プロトタイプ制作(3)	プロトタイプの完成とテスト
14	プロトタイプ制作(4)	テストの結果に基づいた改良案の検討
15	期末発表	現時点での制作状況、ならびに今後の制作に関するプレゼンテーション

科目名	人間心理特論 I	ナンバリング	HP24-AM-03-4
担当者氏名	高田 晃治		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。		

《授業の概要》

本授業では、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。また、文献を検索して読解すること、実験や調査を実施すること、データを分析すること、レポートを執筆して説明することなどを体験的に学習する。そして、各自が自分が深く知りたい、調べたいテーマを考え、後期からの人間心理特論Ⅱに向けて準備をしていく。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）

《授業の到達目標》

- ①自分の調べたいテーマを明確にして、他者に伝えることができる。
- ②自分の関心ある領域について専門書を読み、内容を理解し、説明できる。

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《成績評価の方法》

- ① 研究への取り組みに関するルーブリック評価 30%
- ② レポート 70%

《フィードバックの方法》

口頭および添削指導等を通じてフィードバックを行う。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	特論の進め方について説明する。
2	心理学の研究法	心理学の一般的な研究法について学修する。
3	テーマの設定	自分の調べたいこと、知りたいことを挙げ、それを知るために必要な研究の目的、方法、仮説等考える。
4	文献検索	図書館やインターネットを介した文献検索の仕方を学ぶ。
5	心理学文献の読み方	一般的な心理学の研究論文の構成を知り、論文の効率的かつ正確な読み方を学ぶ。
6	研究の進め方	心理学に関する実際の研究の進め方について学ぶ。
7	質問紙による研究（1）	先行研究を参照し、さまざまな質問紙について調べる。
8	質問紙による研究（2）	質問紙調査を進めていく上でのプロセスや留意点について学ぶ。
9	観察・面接による研究	観察や面接による研究の進め方や留意点について学ぶ
10	文献研究	文献研究の進め方や留意点について学ぶ。
11	実験による研究	心理学実験を行う上での注意点、要因計画等について学ぶ。
12	データの分析	調査・実験等によって得られたデータの整理・記述・分析の仕方について学ぶ。
13	心理学レポートの書き方	一般的な心理学レポートの書式と書き方を学ぶ。
14	心理学研究の倫理	心理学に関する研究を行う上で銘記すべき研究倫理について学ぶ。
15	心理学研究に向けて	特論を進めていく上で、各自の研究テーマや方法を具体的に検討する。

科目名	公衆衛生特論 I	ナンバリング	HP24-AM-03-4
担当者氏名	新谷 奈苗、永岡 裕康		
授業方法	演習	単位・必修	1・選択必修 開講年次・開講期 2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

2年間の学修を通して感じている疑問や関心をもった公衆衛生分野の課題を明らかにするために、研究論文を収集する。収集した論文を整理、クリティークして自らの研究課題を明確にする。自らの研究課題について研究目的を明らかにするための方法を学び、研究計画をまとめられるよう教授する。

《テキスト》

適宜、資料を配布する

《参考図書》

適宜、紹介する

《授業の到達目標》

1. 関心をもった課題の研究論文を検索し、収集できる。
2. 収集した論文を理解、クリティークし、自らの研究に活用することができる。
3. 自らの研究課題について研究テーマ、目的、研究方法を明確にし、抄録ならびに研究計画作成につながることをできる。

《授業時間外学修》

事前学習：各クリティークの準備をする (30分程度)
事後学習：研究計画を作成する (30分程度)

《成績評価の方法》

研究計画書50%
クリティークへの参画状況50%

《備考》

《課題へのフィードバックの方法》

研究計画書について全体への講評の時間を設ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション、 テーマの見つけ方	授業計画、および授業内容の説明、授業のすすめ方を説明する 研究テーマの着眼点と発想の方法
2	関心をもった課題・疑問 の明確化	課題・疑問について知りたいことの明確化
3	文献検索の必要性と方法 ①	文献検索の必要性、およびその方法
4	文献検索の必要性と方法 ②	各自が関心をもった課題・疑問に関連する文献検索方法 (専門性による文献データベースの選別、キーワードの入れ方など)
5	文献検索の実際①	関心をもった論文を検索し、取り寄せる
6	文献検索の実際②	取り寄せた論文を整理する
7	クリティークの実際①	クリティークとは。クリティークのすすめ方
8	クリティークの実際②	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
9	クリティークの実際③	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
10	クリティークの実際④	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
11	クリティークの実際⑤	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
12	クリティークの実際⑥	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
13	クリティークの実際⑦	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
14	クリティークの実際⑧	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う
15	クリティークの実際⑨	取り寄せた論文を用いて実際にクリティークを行う

科目名	ビジネス特論 I	ナンバリング	HP24-AM-09-4
担当者氏名	金岡 敬子		
授業方法	演習	単位・必修	1・選択必修 開講年次・開講期 2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

各自が興味関心を持った出来事をテーマにして、卒業研究に必要な基礎知識を学ぶ。特に、社会の動向を理解し、その中から自らが深く調べたいテーマや問題を発見し、調査研究をしながら、基本的な研究方法を学ぶ。また、前期の内容を基に後期に開講する特論Ⅱに向けての準備を行う。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①自らが問題を発見し、そのテーマについて解決をしていく基本的な能力を身につける。
- ②自らが関心のある領域について、専門知識を身につけ、その内容を理解し、他者に説明ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索を行い、関心を引く資料には目を通しておくこと。(30分程度)
 事後学修：授業内で受けた指導内容を参考に、自分の考えを遂行し、次の授業までに準備しておくこと。(30分程度)
 ※この授業は、遠隔授業となった場合も対面授業と同等の学びの保証を行うものとする。

《成績評価の方法》

- 1. 研究調査 (資料のまとめ25% AL25%) 50%
 AL:アクティブラーニング ルーブリックで評価します。
- 2. 課題提出 30% 3. レポート作成 20%
 《提出課題のフィードバックの方法》
 提出物並びに提出課題については、授業内で指導を行う。

《備考》

具体的内容については、授業内で適宜調整して進めていく。日頃、社会の出来事に関心を持ち、新聞や情報誌等から積極的に情報収集を行うこと。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業内容についての説明
2	研究の基礎 1	情報の収集方法と文献検索について
3	研究の基礎 2	読解力を身につける ・文献の収集方法と入手資料の理解
4	研究の基礎 3	レポートと論文について ・引用表現・参考文献の記述方法を理解する
5	研究の基礎 4	課題発見力を身につける
6	研究の基礎 5	表現力を身につける ・論理的な表現の理解と書き方
7	情報収集 1	アイデアを形にする ・思考をまとめるスキルの習得
8	情報収集 2	情報収集による課題発見力を身につける ・調査方法、収集データの整理方法
9	プレゼン資料作成 1	PowerPointの活用による資料作成の方法について①
10	プレゼン資料作成 2	PowerPointの活用による資料作成の方法について②
11	研究の基本理解 1	これまでの資料整理と情報のまとめ、執筆の準備
12	研究の基本理解 2	調査、分析の方法
13	研究の基本理解 3	資料の読解と考察
14	研究テーマの決定	研究論文の説明と発表
15	まとめ	前期のまとめ 特論Ⅱへの計画、抱負、プレゼンテーション、ディスカッション

科目名	環境と健康	ナンバリング	HP24-IS-03-2
担当者氏名	有吉 邦江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

私たちを取り巻く自然環境・人為的環境及びその現状を理解し、それが人の健康にどのように影響しているかを理解する。また、現状の課題に対し、どのように行動していけば、持続可能な社会づくりができるのか、柔軟に対応できる能力を身に付ける。

《テキスト》

市販テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①自然環境、生活環境と人の健康との関わりを概略を理解する。
- ②さまざまな人間活動が環境や健康（生存）に及ぼす影響について具体的に理解する。
- ③私たちの今後の生活のあり方について考えることができる

《授業時間外学修》

事後学修：配付資料の要点整理をしておくこと。(20分程度)

《成績評価の方法》

- ①中間試験 (30%)
 - ②期末試験 (50%)
 - ③演習への参加・レポート 本試験時に提出 (20%)
- 《試験のフィードバック方法》
 中間試験(30分・解説10分)、期末試験(60分・解説30分)

《備考》

新聞・TVなどから身近な環境問題と私たちの生活との関係性を普段から考えおいてほしい。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	「環境」とは	私たちを取り巻く環境と人の健康との関わりを概観し、これまでの環境政策を学ぶ。
2	地球を知る	地球の自然環境と生態系について学ぶ。
3	大気環境	大気汚染の歴史と課題及びそれに対する対策、現在の課題について学ぶ。
4	水環境	水質汚染の歴史と課題及びそれに対する対策、現在の課題について学ぶ。
5	身近な環境問題とその対策	騒音・振動・悪臭といった生活環境や大気・水環境以外の環境問題とその対策について学ぶ。
6	廃棄物処理と循環型社会づくり	廃棄物処理、リサイクル、資源循環型社会づくりについて学ぶ。
7	放射性物質の影響 中間試験	放射性物質による環境・人への影響とその対策について学ぶ。中間試験。
8	地球温暖化と脱炭素社会づくり	地球温暖化や気候変動に係る課題とそれに対する対策、脱炭素社会づくりに関し私たちができることを学ぶ。
9	地球環境問題	地球温暖化・気候変動以外の、酸性雨、オゾン層破壊などの地球環境問題とその対策について学ぶ。
10	環境保全活動	環境学習、環境マネジメントシステムなど、私たちや企業が行っている環境保全活動を学ぶ。
11	最近の環境問題	最近の環境問題と政策について学ぶ。
12	食と環境	食と環境の関わりについて学ぶ。
13	化学物質と生活環境	生活環境中の化学物質リスクを学び、私たちの関わり方を学ぶ。
14	環境問題に対し私たちは何をすべきか1	これまでの学びを通じて私たちが何をすべきかを演習する。
15	環境問題に対し私たちは何をすべきか2	これまでの学びを通じて私たちが何をすべきかを演習する。

科目名	インターンシップ		ナンバリング	HP24-IS-05-3	
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A12-103 (思考力・判断力・表現力)自分自身や他者の心理や行動について理解し、ことばで説明できる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。 <input type="radio"/> A13-110 (主体性・多様性・協調性)人間関係や対人援助について学修したことを、社会の中で実践する姿勢を身につけている。				

《授業の概要》

春季・夏季休業中にインターンシップ受け入れ企業・役所・施設等において実習を行なうが、事前及び事後研修がある。事前研修では職業人として必要なマナーを学ぶ。事後研修では、実習終了後に作成した報告書をもとに、体験報告会を行なう。実際の職場を体験し、職業観や職業意識を磨き、ビジネス業務や事務処理に関する基本的な知識を修得する。

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

必要に応じて、適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①自分なりの職業観を持ち、高い職業意識を持つことができる。
- ②社会人としての心構えを持つことができる。
- ③実習先の現場の仕事を理解し、将来の仕事のイメージができる。

《授業時間外学修》

事前学修：
 ・実習先（企業・役所・施設など）について、事前に綿密に調査する。（60分）
 ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、テレビニュースを見る。（60分）
 事後学修：配付された資料などを読み返す。（30分）

《成績評価の方法》

1. 事前研修での実習先の調査・積極的質疑応答 20%
2. 実習先の評価 60%
3. 体験報告 20%（ルーブリック評価）
 《体験報告のフィードバックの方法》
 インターンシップ報告会、PPの発表による振り返り。

《備考》

主に実務家教員による授業
 対面授業の予定だが、状況等により変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	事前研修	①ガイダンス、インターンシップとは何か アンケート実施、自己紹介、インターンシップの予定の説明等含む
2	事前研修	②実習先の企業・業界研究 業種・職種・仕事内容等の理解
3	事前研修	③実習先の企業・業界研究 社訓・企業理念・社是等の説明と確認
4	事前研修	④実習日誌の書き方と実習での評価方法の説明 作成上の注意点、書き方のポイント、評価方法についての理解
5	事前研修	⑤受け入れ先とのマッチング相談 個別面談・指導
6	事前研修	⑥受け入れ実習先の訪問について ペアワーク、グループワークによる実践練習
7	事前研修	⑦ビジネスマナーの研修 言葉遣い、報連相、コミュニケーションの基本
8	実習	実習責任者によるガイダンス（春季休業中に5日～10日間で実施） 実習、「インターンシップ実習日誌」記載
9	実習	実習責任者によるガイダンス 実習、「インターンシップ実習日誌」記載
10	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載
11	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載
12	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載 実習責任者による「インターンシップ実習日誌」のチェック
13	実習後	礼状と封筒表書きの書き方について 作成上の注意事項と内容確認
14	事後報告	体験報告（「インターンシップ実習日誌」）の提出と実習の振り返り グループワークと口頭発表
15	事後報告	インターンシップ報告会でのPPT作成によるプレゼン発表

科目名	特別研究	ナンバリング	HP24-IS-06-4
担当者氏名	金岡 敬子		
授業方法	その他	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力) 獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。

特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取組みを期待したい。

《授業の到達目標》

1. 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
2. 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができる。
3. 図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《成績評価の方法》

提出された研究論文あるいは研究制作評価は、指導教員が行う。

《学生へのフィードバック方法》
 課題提出後に検討会を行う。

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・ビジネス・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス 各教員の専門分野の紹介
2	研究テーマの決定	指導教員と相談のうえ決定する。
3	研究テーマの決定	研究テーマは、指導教員を通じて、所定の用紙を、所定の期日までに教務部に提出する。
4	研究論文、研究制作の進行	研究計画をたてる。
5	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
6	研究論文、研究制作の進行	第1回中間報告
7	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
11	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	第2回中間報告
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	研究論文、研究制作の進行	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	データサイエンス入門	ナンバリング	MB24-GE-09-2
担当者氏名	永岡 裕康		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-96 (知識・技能) ビジネスマナー、ICT(情報通信技術)活用に関する基本的な知識と技能を修得している。 <input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-138 (思考力・判断力・表現力) 修得したビジネスマナー、ICT活用を始めるとする様々な知識と技能を実践の中で活用し、表現できる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

社会のさまざまな情報を整理、活用することが求められている。本授業ではデータサイエンスの基本的な知識を身につけたうえで、具体的な情報の集め方、整理、分析、活用の基礎的な方法を学ぶ。

《テキスト》

別途指示する。

《参考図書》

適宜資料を配布する。

《授業の到達目標》

- ・データサイエンスに関する基本的な知識を身につけている。
- ・Excelで実践可能なデータサイエンス入門レベルの技術を使うことができる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキスト内の次回の授業部分を読み、概要を理解する。(20分)
 事後学修：授業で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。(30分)

《成績評価の方法》

中間レポート：60%
 期末レポート：40%
 《フィードバックの方法》
 理解が不十分な点について、講義のなかで説明する。

《備考》

基本的には対面で授業を実施するが、社会情勢その他の事情により遠隔授業を行うこともある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・データサイエンスとは①	ガイダンス、データサイエンス概要
2	データサイエンスとは②	データサイエンスを構成する要素
3	ディープラーニングとは	ディープラーニングとは何か、またその事例
4	データ分析技法①	グラフによる可視化
5	データ分析技法②	分布と統計的手法を用いる意義
6	データ分析技法③	Excelアドインを用いた統計分析方法 基本統計量
7	データの取得方法①	公開されているデータの取得
8	データ分析の実際①	実データを用いた差の検定
9	データ分析の実際②	実データを用いた相関分析と散布図
10	データ分析の実際③	回帰分析
11	データの取得方法②	アンケートツールによるデータ収集と倫理的配慮
12	データ分析技法④	定性データの分析
13	ビッグデータ	大規模データを使ってできること
14	データサイエンスのこれから	今後の展望を考える
15	まとめ	学修内容のまとめと最終レポート

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	くらしと経済	ナンバリング	MB24-GE-15-1
担当者氏名	永田 智章		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ◎ A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。		

《授業の概要》

私たちのくらしに身近な事例を用いて経済活動の基本的な理論や仕組み解説します。経済の意味、家計・企業・政府・銀行・証券会社等の活動、好況と不況、インフレとデフレ、円高と円安、環境と経済といった経済の基本について、受講生の皆さんと一緒に考え、頭の柔軟体操をします。

《テキスト》

使用しません。必要に応じ参考資料を紹介したり、プリントを配布します。

《参考図書》

授業の中で紹介する予定です。

《授業の到達目標》

到達目標は、①経済活動の意味を身近な事例を通じて理解している。②家計の役割と消費活動の基本を理解している。③企業の役割と生産活動の基本を理解している。④貨幣の機能と金融機関の業務を理解している。⑤経済活動の活発さと政府による経済活動を理解している。⑥国際経済の豊かな教養を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修として、毎日20分程度時間を作り、テレビのニュースや新聞記事に親しみ、経済、政治、社会の最新情報を知る習慣を身につけてください。気になる時事問題を見つけておきましょう。事後学修として、授業後は15分程度は復習としてノートを読み返しておきましょう。

《成績評価の方法》

課題レポート(40%)と期末試験(60%)が評価基準です。

《試験等のフィードバック方法》

定期試験終了後に解説を行います。解答時間60分、解説時間30分を予定しています。

《備考》

ノートを取ることがとても大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	経済のイメージ	経済と聞いてイメージすること 経世済民 経済とくらし
2	経済活動と経済主体	消費・生産・交換 家計・企業・政府・金融機関 経済循環
3	家計と消費①	所得と消費 価格と消費
4	家計と消費②	就職と労働供給 貯蓄と資金供給
5	企業と生産①	商品の生産 利益の追求 ブランド戦略
6	企業と生産②	株式会社の仕組み
7	貨幣の役割	決済手段 交換媒体 価値尺度 価値保存
8	金融の役割①	銀行の業務 預金・貸出・決済
9	金融の役割②	証券会社の業務 金融商品
10	政府の経済活動①	財政の目的 公共財の供給 社会保障 経済政策
11	政府の経済活動②	税金の集め方
12	GDPの話	GDPの意味 生産・所得・支出
13	好況と不況	好況とインフレーション 不況とデフレーション
14	グローバル経済①	為替レートと貿易
15	グローバル経済②	国境を越えた経済活動

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナー I		ナンバリング	MB24-GE-19-2	
担当者氏名	新谷 奈苗、永岡 裕康				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-96 (知識・技能) ビジネスマナー、ICT(情報通信技術)活用に関する基本的な知識と技能を修得している。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力) 獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 <input type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性) 社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

働く女性として身につけておきたい知識、技術、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。
 加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
 事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《成績評価の方法》

適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
 《学生へのフィードバック方法》
 授業内で説明する。

《備考》

対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する可能性がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・自己を知る①	授業の説明、人間関係・コミュニケーションの初めに自己を知る
2	自己を知る②	マインドマップ作成と活用
3	自己紹介	自己PRを作成（PowerPoint使用）
4	就職状況・キャリア支援の状況	就職状況・キャリア支援について
5	履歴書・小論文	履歴書・小論文の書き方
6	職種・企業の調査①	希望する職種・企業を調査
7	職種・企業の調査②	希望する職種・企業調査結果の発表（各職種ごと）
8	ディスカッション①	グループディスカッション（ディスカッションとは）
9	ディスカッション②	グループディスカッション（演習）
10	ディスカッション③	グループディスカッション（発表・講評）
11	新社会人に期待すること①	国政の立場から新社会人に期待すること
12	社会における女性の活躍	女性が社会で活躍するために
13	新社会人に期待すること②	企業として新社会人に期待すること
14	おもてなしの心と所作	おもてなしの心と所作
15	まとめ	各学科のまとめ、全体まとめ

科目名	ボランティアワーク I		ナンバリング	MB24-GE-21-1	
担当者氏名	吉村 真奈美				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにするものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

- ①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。
- ②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

- ①活動報告書 30%
 - ②ボランティア活動時間 70%
- 《成績のフィードバック方法》
活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房、岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部、田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく(10分程度)。
事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を記入する(30分程度)。
定期試験期間中に、書類をまとめて提出する。

《備考》

活動時間の累計は、人間生活学科と食物栄養学科は卒業年度の1月末日、臨床検査学科は12月末日までの活動時間とする。受け入れ先の感染防止対策を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
2	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
3	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
4	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
5	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
6	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
7	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
8	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
9	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
10	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
11	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
12	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
13	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
14	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施
15	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い、最終報告合計15時間以上実施

科目名	人間関係論	ナンバリング	HP24-PC-05-2
担当者氏名	高田 晃治		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ A11-97 (知識・技能)心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。 ◎ A13-110 (主体性・多様性・協調性)人間関係や対人援助について学修したことを、社会の中で実践する姿勢を身につけている。		

《授業の概要》

人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①人間関係で生じる諸現象を心理学の概念を用いて説明できる。
- ②人間関係の発達過程を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスや授業で予告された内容について予習すること（20分程度）。
事後学修：資料ならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

- ①レポート 70%
 - ②授業後の課題 30%
- 《課題へのフィードバックの方法》
課題ならびにレポートについて学習ポートフォリオを通じてフィードバックする。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：人間関係論とは？	「人間関係論」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	自己と他者	「自己」と関連する諸概念、二者関係における対人認知や印象形成の過程と諸要因について学ぶ。
3	人間関係の発達(1)：乳児期	乳児期における人間関係、母子関係とその発達過程について学ぶ。
4	人間関係の発達(2)：幼児期～学童期	幼児期ならびに学童期における人間関係の発達過程について学ぶ。
5	人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期	青年期、成人期、高齢期（老年期）における人間関係の発達過程について学ぶ。
6	恋愛関係の心理学	恋愛関係および恋愛行動にかかわる理論や要因について学修する。
7	家族関係の心理学(1)	家族関係について心理学的観点から概説する。
8	家族関係の心理学(2)	現代社会における家族を取り巻く環境、困難や支援のあり方について学ぶ。
9	地域社会とコミュニティ(1)	地域社会、コミュニティ、ソーシャルサポートと関連する諸概念について学ぶ。
10	地域社会とコミュニティ(2)	近年のコミュニティの現状、問題点などを検討する。
11	地域社会とコミュニティ(3)	コミュニティにおける支援活動、自助グループ等について学ぶ。
12	集団力学	集団が個人および集団相互に与える心理学的影響について学ぶ。
13	組織の心理学	組織の持つ性質、問題点、リーダーシップの機能等について学ぶ。
14	仕事とストレスマネジメント	仕事をする上でのストレスへの対処やサポートのあり方、対人サービス業におけるストレスについて学ぶ。
15	「さよなら」の心理学	人間関係の終焉としての「別れ」「喪失」について考察する。

科目名	カウンセリング	ナンバリング	HP24-PC-07-3
担当者氏名	高田 晃治		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-98 (知識・技能)人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。 ◎ A12-104 (思考力・判断力・表現力)相手や状況に応じて、言語的および非言語的コミュニケーション技能を適切に活用できる。 ◎ A13-109 (主体性・多様性・協調性)人のことばに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、一人ひとりに誠実に向き合う態度を身につけている。		

《授業の概要》

学生生活を送る中で、人間関係や進路、学業などで、さまざまな問題や悩みが生じるのは誰にでもあり得ることである。この授業では、カウンセリングの基本的な考え方や技法を学習することを通じて、上記のような問題が生じたときに仲間同士で支え合い、問題解決を目指すピアヘルピングの技術を習得することを目指す。また、ピアヘルパーとしての役割や倫理、限界などについても学ぶ。

《テキスト》

日本教育カウンセラー協会（編）「ピアヘルパーハンドブック」（図書文化）

《参考図書》

日本教育カウンセラー協会（編）「ピアヘルパーワークブック」（図書文化）

《授業の到達目標》

- ①ピアヘルピングの基本的な理念や技法に習熟している。
- ②ピアヘルパーとしての役割や倫理を理解している。
- ③カウンセリングの基本的な理論に関する知識を有している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、テキストを読んでおく（20分程度）。
 事後学修：授業で学んだ内容についてテキストを読み返して理解を深め、練習問題を解く（20分程度）。

《成績評価の方法》

- ①試験 70%
 - ②授業後の課題 30%
- 《試験のフィードバックの方法》
 期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。課題については学習ポートフォリオを介してフィードバックする。

《備考》

感原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	導入	授業に関するオリエンテーションを行う。ピアヘルパーおよびピアヘルピングについて概説する。構成的グループエンカウンターของกลุ่มワークを体験する。
2	カウンセリングの定義・略史・種類	カウンセリングの定義・略史・種類について学修する。
3	ピアヘルピングの関係領域	ピアヘルピングの関係領域について学修する。
4	ピアヘルピングのプロセス	ピアヘルピングのプロセスについて学修する。
5	ピアヘルパーのパーソナリティ	ピアヘルパーに求められる資質について学習する。また、近年のカウンセリングの動向について学修する。
6	ピアヘルピングの言語的技法（1）	ピアヘルピングの言語的技法として、「受容」「繰り返し」「明確化」について学習する。
7	ピアヘルピングの言語的技法（2）	ピアヘルピングの言語的技法として、「支持」「質問」について学習する。
8	ピアヘルピングの非言語的技法	ピアヘルピングの非言語的技法について学修する。
9	諸問題への対処法	対話の中で生じがちな具体的な諸問題への対処法を学ぶ。また、ピアヘルパーとして可能な支援法の手段・方法について学ぶ。
10	ピアヘルパーの心がまえ	ピアヘルピングとしての基本的な心がまえ、態度を学ぶ。
11	ヘルピングスキルの上達法	ヘルピングスキルの上達法について学ぶ。
12	ピアヘルパーの倫理	ピアヘルパーとしての倫理について学ぶ。
13	ピアヘルパーの活動領域（1）：学業・進路	学業および進路領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。
14	ピアヘルパーの活動領域（2）：友人・グループ	友人およびグループ領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。
15	ピアヘルパーの活動領域（3）：関係修復・心理	関係修復および心理領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。

科目名	カウンセリング演習	ナンバリング	HP24-PC-08-3
担当者氏名	福田 友美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ A11-98 (知識・技能)人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。 ○ A12-103 (思考力・判断力・表現力)自分自身や他者の心理や行動について理解し、ことばで説明できる。 ○ A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。 ◎ A13-109 (主体性・多様性・協調性)人のかたとに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、一人ひとりに誠実に向き合う態度を身につけている。		

《授業の概要》

この授業では、基本的なソーシャルスキルやストレスマネジメントの力を高めながら、カウンセリングやピアヘルピングの技法を体験的に学ぶことを目標としている。

具体的には、支え合う場をつくる力、自分や他者の内的体験に関心をもつ姿勢、イメージや体験を表現する力、他者の語りを受容的に聴く力、現実的な助言やつなぎをする力等を磨き、実生活に活かしていくことをめざしている。

《授業の到達目標》

- ①基本的なコミュニケーションや心理的な健康管理のスキルが身につけている。
- ②カウンセリングの応答技法を用いることができる。
- ③ピアヘルパーの知識が体験と結びついている。

《成績評価の方法》

- ①アクティブラーニング 30% (ルーブリック評価)
- ②提出カード 40% (ルーブリック評価)
- ③期末試験 30%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

適宜資料を配布

《参考図書》

日本教育カウンセラー協会(編)「ピアヘルパーハンドブック」図書文化(2001年)
 福原 真知子(監修)マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ(2007年)

《授業時間外学修》

事前学修(30分程度):前回の資料を読み返し、理解する。
 事後学修(60分程度):①授業の資料を読み返して大事な箇所に線を引いたり、エクササイズの体験を振り返る。
 ②授業で練習したスキルを日常生活で用いてみる。
 ③「ピアヘルパー」の資格を取る人は、授業で得た体験をハンドブックの記述と結びつけて理解を深める。

《備考》

実務家教員による授業。
 実技練習に重きを置いていますので、なるべく欠席をしないようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	基礎スキル1 自己表現と他者受容	授業のオリエンテーション/グループワーク(安全なやり方で自己表現をする・他者の表現を受容する)
2	基礎スキル2 ストレスマネジメント	ストレスに関する基礎知識を学ぶ/個人ワーク(ストレスチェック・コーピングスタイルのチェック)/実習(リラクゼーション技法)
3	基礎スキル3 気持ちの言語化	自己や他者の感覚や気持ちを言語化する意義を学ぶ/グループワーク(感覚的体験を言語化し、傾聴しあう)
4	基礎スキル4 アサーション	アサーションの概念やアサーティブな自己表現の方法を学ぶ/個人ワーク(自己表現のパターンに気づく)/グループワーク(アサーティブな言い方を考える)
5	応答スキル1 リレーション・傾聴	信頼関係を築くための心がまえや傾聴姿勢の基本を学ぶ/グループワーク(他者の発言を傾聴しながら協力して情報集約をし、問題解決を体験する)
6	応答スキル2 受容・繰り返し	受容の技法と視点の切り替えについて学ぶ/グループワーク(1つの出来事を複数の視点から理解する)/ロールプレイ(自己開示と受容)
7	応答スキル3 共感	共感の技法を学ぶ/個人ワーク(紙上応答練習)/ロールプレイ(相手の声の調子から感情のニュアンスを読み取る・自己開示と共感)
8	応答スキル4 質問	開かれた質問・閉ざされた質問の技法を学ぶ/個人ワーク(紙上応答練習)/ロールプレイ(自己開示と質問・共感)
9	応答スキル5 明確化	明確化の技法を学ぶ/個人ワーク(応答分類練習・言い換え練習・紙上応答練習)/グループワーク(適切な言い換え表現を考える)
10	応答スキル6 要約	要約の技法を学ぶ/個人ワーク(応答分類練習)/ロールプレイ・プレゼンテーション(基本的傾聴技法を用いてインタビューを行い、要約して発表する)
11	応答スキル7 支持・助言	支持・助言の技法を学ぶ/個人ワーク(応答分類練習・カウンセリング場面の観察)/ロールプレイ(支持・助言)
12	実践スキル1 リフレーミング	リソース・リフレーミングを学ぶ/個人ワーク(リソースを見つける)/グループワーク(他者の短所をリフレーミングし、肯定的なメッセージを伝える)
13	実践スキル2 緊急支援	グループワーク(心理的な危機に陥っている人への具体的な対応方法を考える)/トラウマ・うつ・自殺のリスクがある人への対応を学ぶ
14	実践スキル3 リファラー	リファラーや社会資源の基礎知識について学ぶ/個人ワーク(適切な相談先を考える)/ディスカッション(仮想事例で相談機関をどのように利用するか)
15	実践スキル4 構成的グループエンカウンター	グループワーク(構成的グループエンカウンター:仲間とのつながりの中で、自身のリソースを発揮しながら協働するイメージを広げる)

科目名	心理学実験・査定実習		ナンバリング	HP24-PC-11-3	
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ A11-97 (知識・技能) 心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。 ◎ A12-103 (思考力・判断力・表現力) 自分自身や他者の心理や行動について理解し、ことばで説明できる。			

《授業の概要》

心理学はその歴史の中で、人間の心のはたらきを科学的・実証的に解明することを目指して研究が積み重ねられてきた。本授業では心理学に関する基礎的な実験や調査、心理検査を体験的に学び、人の心を実証的に理解する視点を養う。また、心理学研究のレポートの書き方を学ぶことを通じて、事実を簡潔かつ正確に文章化する力、エビデンスに基づいて論理的に考える力を培う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

宮谷真人・坂田省吾 (代表編集) 「心理学基礎実習マニュアル」 (北大路書房)

《授業の到達目標》

- ①一定の手続きに基づいて心理学的なデータを得て、適切に分析し、論理的に考察することができる。
- ②実験や調査、査定の一連のプロセスを、レポートとして執筆・報告することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する文献を検索し、読解しておくこと (20分程度)。
 事後学修：実験・実習で得られたデータを整理・分析し、考察すること (20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①平常点 40%：実習における理解度や態度等をルーブリックにより評価する。
- ②提出物・レポート 60%
 《フィードバックの方法》
 口頭および添削指導等を通じてフィードバックを行う。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション:心理学実験と心理査定	授業に関するオリエンテーションを行う。心理学実験、心理調査、心理査定について概要を学ぶ。
2	心理学研究法とレポートの書き方	心理学の様々な研究法を学ぶ。心理学の研究レポートの一般的な書き方を学ぶ。
3	心理学実験①	心理学の基礎的な実験についてガイダンスを受け、実験に取り組む。
4	心理学実験②	心理学実験で得られたデータを整理、分析し、その結果について考察する。
5	心理学実験③	心理学実験の一連の過程や自身の考察を、先行研究を踏まえてレポートとしてまとめる。
6	心理調査法①	心理調査の目的や特徴、尺度や質問紙の基礎について学ぶ。
7	心理調査法②	調査項目を考えて質問紙を作成し、調査を実施する。
8	心理調査法③	調査結果について集計・分析し、その結果を考察した上で、レポートとしてまとめる。
9	心理査定 (質問紙法①)	心理査定および心理検査について概要を学ぶ。質問紙法によるパーソナリティ検査を体験する。
10	心理査定 (質問紙法②)	質問紙法によるパーソナリティ検査の結果を、パーソナリティに関する理論を参照しながら考察する。
11	心理査定 (質問紙法③)	質問紙法によるパーソナリティ検査の一連の体験をレポートとしてまとめる。
12	心理査定 (投映法①)	投映法によるパーソナリティ検査について、その種類や特徴等を学び、実際に体験する。
13	心理査定 (投映法②)	投映法によるパーソナリティ検査の結果について、先行研究や文献を参照しながら、解釈仮説を立てる。
14	心理査定 (投映法③)	心理査定・心理検査の一連の過程をレポートとしてまとめる。
15	まとめ	心理学の研究法、実験、調査、心理査定について振り返る。心理学レポートの書き方について再確認する。

科目名	介護報酬事務特講 I		ナンバリング	HP24-MC-08-3	
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。			

《授業の概要》

急速な高齢化と高齢社会に伴い、急増する要介護高齢者と家族介護の現状を概観しながら、社会全体で介護を担うことの意義を理解し、新しい介護システムである介護保険制度の創設の意義について考える。介護報酬算定の仕組み、明細書の記載方法まで学ぶ。さらに、社会福祉制度、利用者との接し方や介護の基礎知識についても学ぶ。
ケアクラーク技能認定試験合格を目指す。

《テキスト》

「介護保険請求実務」「介護保険請求実務(別冊)」「社会福祉と人間関係」「サービスコード・DPCコード表」「介護給付費明細書」「介護事務基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①介護保険制度が導入された背景や仕組みに習熟している。
- ②介護サービスの内容、高齢者に対しての福祉制度を理解している。
- ③介護給付費明細書の記載ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：各単元のテキスト冒頭の学習ポイントに目を通しておくこと。(10分程度)
事後学修：①確認テストの復習(10分程度)
②授業中に行った基礎問題集の問題を復習する。(20分程度)

《成績評価の方法》

- ①期末試験 70%
 - ②確認テスト、課題の提出と完成度 30%
- 《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説(10分程度)
期末試験：試験終了後に解説を行う。

《備考》

介護報酬事務特講Ⅱと併せて受講すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度概論	介護保険制度 介護保険制度の仕組み
2	介護保険制度概論	要介護認定 介護支援専門員 介護サービス計画の作成 練習問題
3	介護給付費請求の実際	訪問介護費 訪問入浴介護費 訪問看護費 居宅療養管理指導費 通所介護費 通所リハビリテーション費 短期入所生活介護費 福祉用具貸与費 練習問題
4	介護給付費請求の実際	居宅介護支援費 介護福祉施設サービス費 介護保健施設サービス費 介護療養施設サービス費 地域密着型サービス費 練習問題
5	介護給付費請求の実際	介護給付費の請求について 介護給付費明細書記載について 明細書記載(在宅サービス) 練習問題
6	介護給付費請求の実際	明細書記載(在宅サービス) 練習問題
7	介護給付費請求の実際	明細書記載(在宅、施設サービス) 練習問題
8	介護給付費請求の実際	明細書記載(施設サービス) 練習問題
9	社会福祉と人間関係	社会福祉の理念と意義 社会保障制度と社会福祉の概要 練習問題
10	社会福祉と人間関係	社会福祉援助技術 地域福祉の理念と内容・推進方法 練習問題
11	社会福祉と人間関係	現代社会における老人福祉 老人福祉法 高齢者に対する総合的援助 練習問題
12	社会福祉と人間関係	老化 高齢者・障害者の心理的、身体的特性と対応 練習問題
13	社会福祉と人間関係	リハビリテーション 接遇マナー 人間関係 コミュニケーションの技能 練習問題
14	介護概論 医学一般	介護の役割と範囲 成人・高齢者・障害者などの介護 人体の構造および機能 高齢者の代表的疾患
15	まとめ	確認テスト

科目名	介護報酬事務特講Ⅱ		ナンバリング	HP24-MC-09-3
担当者氏名	浜咲 こずえ			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。		

《授業の概要》

介護保険制度、介護給付費明細書の記載要領を復習し、ケアクラーク技能認定試験問題を解いていく。
ケアクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「介護保険請求実務」「介護保険請求実務(別冊)」「社会福祉と人間関係」「サービスコード・DPCコード表」「介護給付費明細書」「介護事務講座 技能認定試験問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①ケアクラーク技能認定試験の学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)実技(居宅サービス費・施設サービス費の明細書記載)を理解している。
- ②技能認定試験問題の学科、実技、各々7割以上正解し、合格できる実力を身につける。

《授業時間外学修》

事前学修：問題集の実技問題を確認しておくこと(5分程度)
事後学修：①毎回行う確認テストを復習する(10分程度)
②授業中に実施した問題集の誤った箇所を復習する(30分程度)

《成績評価の方法》

- ①期末試験 70%
 - ②確認テスト、課題の提出と完成度 30%
- 《課題・試験のフィードバックの方法》
確認テスト：返却時に解説
期末試験：試験終了後に解説を行う

《備考》

介護報酬事務特講Ⅰと併せて受講すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度の復習	介護保険制度の復習
2	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施
3	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科問題の解説 介護保険請求実務(別冊)…サービスコード表の見方
4	ケアクラーク技能認定試験問題集A	居宅サービス(訪問介護 通所介護)施設サービス(療養病床を有する病院)の介護給付費明細書の作成 特定事業所加算、他科受診について
5	ケアクラーク技能認定試験問題集B	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施
6	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅サービス(訪問看護 通所リハ 居宅療養管理指導)施設サービス(介護保健施設サービス)の介護給付費明細書の作成
7	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅療養管理指導、外泊、緊急時治療管理について
8	ケアクラーク技能認定試験問題集C	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施
9	ケアクラーク技能認定試験問題集C	居宅サービス(訪問看護 通所リハ)施設サービス(療養病床を有する病院)の介護給付費明細書の作成 特定診療費について
10	ケアクラーク技能認定試験問題集D	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施
11	ケアクラーク技能認定試験問題集D	居宅サービス(訪問介護 訪問入浴介護)施設サービス(介護保健施設サービス)の介護給付費明細書の作成 介護職員処遇改善加算について
12	模擬試験問題1	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施 居宅サービス(訪問介護訪問入浴介護)施設サービス(介護保健施設サービス)の介護給付費明細書の作成
13	模擬試験問題2	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施 居宅サービス(訪問看護通所リハ)施設サービス(療養病床を有する病院)の介護給付費明細書の作成
14	模擬試験問題2	学科(介護保険制度・福祉制度・介護給付費)…25問実施 居宅サービス(訪問介護訪問入浴介護)施設サービス(介護保健施設サービス)の介護給付費明細書の作成
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 ビジネス実務》

科目名	ビジネス実務演習		ナンバリング	HP24-BP-02-3	
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。			

《授業の概要》

前期「ビジネス実務総論」に引き続き講座です。ビジネス現場で職業人として業務を理解し、実践するための専門的スキルを深める。演習の授業なので、単に知識習得のみならず、実践的行動を身に付けることを目指す。ビジネス系検定にチャレンジし、ビジネス実務の定着も目指す。

《テキスト》

横山秀世編著「ビジネス文書 ーオフィスワーカーの実務ー」建帛社

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定 受験ガイド」3級・2級 早稲田教育出版
 公益財団法人 実務技能検定協会編「秘書検定パーフェクトマスター」3級・2級 早稲田教育出版

《授業の到達目標》

1. ビジネスパーソンとして必要な資質を身につけている
2. ビジネス実務に必要な話し方（敬語）や対応ができる
3. ビジネス文書（メール含）を自分で書くことができる
4. ビジネス現場の交際に関する対処法を理解してできる
5. ビジネス倫理やビジネス法規のポイントを説明できる

《授業時間外学修》

総合力を養うため、検定試験受験指導にも力を入れる。
 【事前学修】課題を自宅学習する（60分）
 【事後学修】「まとめノート」を作り復習する（30分）

《成績評価の方法》

1. 文書表現技能・グループワーク・発表 40%
 2. 課題（ルーブリック評価）・小テスト 30%
 3. 学期末テスト 30%
- 《フィードバック方法》
 課題・小テストについての講評の時間を設けます。

《備考》

ビジネス系検定の内容は幅広く、ビジネス現場で求められる資質や組織の知識などの総合力を養うのに役立つ。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス現場理解	サービス活動（基本動作の立居振舞、言葉遣いの基本）
2	ビジネス現場理解	サービス活動（接遇マナー・電話応対の実習）
3	ビジネス現場理解	表現活動（慶弔業務、贈答などのビジネスマナー）
4	ビジネス現場理解	表現活動（会議業務、スケジュールリングなど）
5	ビジネス現場理解	情報活動（ビジネス文書作成業務の実際）
6	ビジネス現場理解	情報活動（出張業務など）
7	ビジネス現場理解	情報活動（組織形態や役割の復習）
8	ビジネス現場理解	情報活動（組織部門の復習）
9	ビジネスと情報活用理解	情報の収集、評価、加工・活用、整理・保管の意義や事例（電子メール WWWの特徴）
10	ビジネスと組織活動理解	組織の定義と種類 グループダイナミックスの特徴理解
11	ビジネスと組織活動理解	チームワークにおける個人の役割理解 チームの問題解決プロセス
12	ビジネス実務の活動理解	4つの基幹機能について （オペレーション活動の理解、開発・生産・流通のオペレーション）
13	ビジネス実務の活動理解	4つの基幹機能について （マーケティング活動の理解、企画と営業部門の位置づけと活動）
14	ビジネス実務の活動理解	人的資源管理法 （企業が進める教育や能力開発システム）
15	まとめ	総合演習問題 まとめ小テスト

科目名	電子会計実務応用		ナンバリング	HP24-BP-13-3	
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。			

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎から応用を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験2級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験2級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定上級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験 60%
 - ②平常点 (質問、小テスト、宿題を含む) 40%
- 《課題へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「コンピューター会計 基本テキスト」(実務出版)、弥生株式会社著「コンピューター会計 応用 テキスト」(実務出版)

《参考図書》

弥生株式会社著「コンピューター会計 基本 問題集」(実務出版)
 弥生株式会社著「コンピューター会計 応用 問題集」(実務出版)

《授業時間外学修》

事前学修 (10分) : 事前にテキストに目を通しておくこと。
 事後学修 (60分) : テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	個別論点	手形取引、固定資産・その他の取引
3	決算の手続き	年次決算について
4	会計データの新規作成 (導入処理) (1)	企業の基本情報の設定
5	会計データの新規作成 (導入処理) (2)	決算の手続き
6	会計データの新規作成 (導入処理) (3)	繰越処理と部門の設定
7	製造業における原価情報 (1)	原価計算の手続きと原価計算の種類
8	製造業における原価情報 (2)	製造原価報告書の作成と製造業の月次決算
9	製造業における原価情報 (3)	製造部門を有する企業の会計処理
10	予算管理と経営分析指標 (1)	経営分析
11	予算管理と経営分析指標 (2)	経営分析
12	収益構造分析と短期利益計画 (1)	損益分岐点分析
13	収益構造分析と短期利益計画 (2)	短期利益計画
14	資金の管理	資金繰り表の作成
15	電子会計のまとめ	全体の総復習

科目名	情報管理特論Ⅱ		ナンバリング	HP24-AM-02-4	
担当者氏名	鵜根 弘行				
授業方法	演習	単位・必修	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

本講義は情報管理特論Ⅰに引き続き、本学で学んだ情報技術を利用した作品の制作、ならびにプレゼンテーションについて学修する。制作する作品は基本的にWebページを想定しているが、チャレンジしてみたい課題があれば、内容に応じて指導する。

《テキスト》

適宜にプリント資料を配布する。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業の到達目標》

- ①課題制作に使用するシステムの特徴を理解し、活用できる
- ②課題制作に使用するプログラム言語の特徴を理解し、活用できる
- ③課題の制作手法について理解し、活用できる。

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集を行う。
 (課題ごとに30分程度)
 事後学修：必要に応じて、授業時間中に完了しなかった作業を行う。(30分～2時間程度)

《成績評価の方法》

- ①課題提出 40% (ルーブリックによる評価)
 - ②特論発表 60% (ルーブリックによる評価)
- 《学生へのフィードバック方法》
 特論発表後に検討会を行う。
 講義中に出题した課題は、原則として時間内に解説する。

《備考》

この講義を受講する場合、情報管理特論Ⅰも履修しなくてはならない。原則として対面形式で実施するが、状況によっては遠隔講義形式に変更する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	制作計画	作品の完成、ならびに特論発表会までのスケジュールの設定を行う
2	作品制作(1)	プロトタイプのテスト結果に基づき、提出作品の骨格を作成
3	作品制作(2)	作品の主要な機能を作成
4	作品制作(3)	作品の細部を構成する機能を作成
5	作品制作(4)	優先度の低い機能を必要に応じて追加作成
6	中間発表(1)	制作した作品の発表と機能テスト
7	作品調整(1)	中間発表(1)で指摘された問題点の改良
8	作品調整(2)	作品調整(1)で対処できなかった問題点の改良
9	最終テスト	作品中のすべての機能のテスト
10	最終調整	最終テストで判明した問題点の改良
11	中間発表(2)	受講生同士の最終作品の発表
12	抄録作成(1)	抄録に掲載するスクリーンショット、ならびに抄録本文の制作
13	抄録作成(2)	抄録原稿の校正
14	発表練習(1)	抄録の内容を元にプレゼンテーションスライドを作成、発表練習
15	発表練習(2)	発表練習(1)で指摘された問題点を元にスライドを修正、発表練習

科目名	人間心理特論Ⅱ		ナンバリング	HP24-AM-04-4	
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。			

《授業の概要》

本授業では、前期の「人間心理特論Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。本授業では各自研究テーマを具体的に決定し、先行研究を調べ、実際に調査し、得られた結果について考察し、発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行うまでの、心理学研究のプロセスを体験的に学習する。

《授業の到達目標》

- ①諸注意を守り、実際に研究を行なえる。
- ②得られた結果を論理的に考察し、わかりやすくプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

- ①研究への取り組みに関するルーブリック評価 10%
 - ②抄録 40%
 - ③プレゼンテーション 50%
- 《フィードバックの方法》
研究指導を行う中で、随時フィードバックを行う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）
松井 豊「改定新版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために」（河出書房新社）

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、内容を理解しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《備考》

原則として対面授業を行う予定だが、必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	研究計画の発表（1）	各自、研究計画を発表する。
2	研究計画の発表（2）	各自、研究計画を発表する。
3	調査・研究にあたっての諸注意（1）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
4	調査・研究にあたっての諸注意（2）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
5	研究グループの決定	各自の関心のある領域をもとに、研究の小グループを決める。
6	研究テーマの具体化（1）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
7	研究テーマの具体化（2）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
8	質問紙の作成（1）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
9	質問紙の作成（2）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
10	データの収集	データを収集し、整理する。
11	分析と解釈（1）	得られたデータを分析し、考察する。
12	分析と解釈（2）	得られたデータを分析し、考察する。
13	研究抄録の作成（1）	研究を抄録にまとめる。
14	研究抄録の作成（2）	研究を抄録にまとめる。
15	プレゼンテーション	発表用資料を作成し、プレゼンテーションの練習を行う。

《専門教育科目 特論》

科目名	公衆衛生特論Ⅱ	ナンバリング	HP24-AM-06-4
担当者氏名	新谷 奈苗、永岡 裕康		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修 開講年次・開講期 2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

「公衆衛生特論Ⅰ」で学んだ知識をベースに、それぞれ明確にしたテーマに沿って研究計画をまとめ、発表までの一連の力を身につける。

《テキスト》

適宜、資料を配布する

《参考図書》

適宜、紹介する

《授業の到達目標》

- ①テーマに沿って抄録・研究計画書を完成することができる
- ②研究成果を発表するとともに、口頭試問に対応できる

《授業時間外学修》

事前学修 (30分) : テーマに沿って必要な文献を収集し読んでおく
 事後学修 (30分) : 抄録と研究計画書を作成する

《成績評価の方法》

研究計画書 50%
 抄録 30%
 発表資料 20%

《備考》

《フィードバックの方法》

研究計画書・抄録について講評の時間を設ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業計画および授業内容、すすめ方を説明する 抄録・研究計画書・発表資料の提出日や規程を確認する
2	クリティーク論文の研究への活用①	クリティークした論文を自らの研究に活用する
3	クリティーク論文の研究への活用②	クリティークした論文を自らの研究に活用する
4	学修成果の発表	クリティークした論文を活かして研究テーマにつなぐ
5	学修成果の発表	クリティークした論文を活かして研究テーマにつなぐ
6	研究倫理について①	倫理的配慮が必要な研究への対応
7	研究倫理について②	COIの意味と記載方法、倫理的配慮の記載方法
8	研究目的と研究意義の明確化	研究目的と研究意義を明確にする、
9	研究の背景と研究動機の明確化	研究の背景と研究の動機を明確にする
10	研究対象と研究方法の明確化	研究対象と研究方法を明にする
11	考察の書き方	選別した論文を用いて考察を深める方法
12	研究計画書の実際①	研究計画書を作成する
13	研究計画書の実際②	研究計画書を作成し吟味する
14	抄録の実際	抄録を作成する
15	発表資料の実際	発表資料作成と発表練習、口頭試問への対応

科目名	ビジネス特論Ⅱ		ナンバリング	HP24-AM-10-4	
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input checked="" type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。			

《授業の概要》

本授業は、前期の特論Ⅰに引き続き各自のテーマを掘り下げて研究を進める。各自が決定した研究テーマに基づき、先行研究、調査、結果を考察して発表資料に纏める。最終的には特論発表会の場でプレゼンテーションを行う。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①研究上の倫理を守り、実際に調査することができる。
- ②得られた結果を論理的に考察し、わかりやすくまとめ発表ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：文献検索、情報収集を積極的に行う。(30分)
 事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして自分の考えを推敲し、まとめる。(30分)
 ※この授業は、遠隔授業となった場合も対面授業と同等の学びの保証を行うものとする。

《成績評価の方法》

- 1. 抄録作成 40%
- 2. プレゼンテーション 40%
- 3. 取り組み態度 20% ルーブリックで評価します。
 《フィードバック》研究指導を行う中で、随時フィードバックを行う。

《備考》

具体的内容については、授業内で適宜調整して進めていく。日頃、社会の出来事に関心を持ち、新聞や情報誌等から積極的に情報収集を行うこと。実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	課題の発表 1	夏季休暇中に調べた課題について発表、ディスカッション①
2	課題の発表 2	夏季休暇中に調べた課題について発表、ディスカッション②
3	調査・研究にあたっての諸注意 1	調査研究上の留意点を学ぶ
4	研究グループの決定	各自が関心を持った領域に基づいて、研究グループを決める
5	研究の進行 1	テーマの決定、背景、問題点、狙いなどを明確にする
6	研究の進行 2	研究テーマに沿って主体的に資料収集、分析を行う①
7	研究の進行 3	研究テーマに沿って主体的に資料収集、分析を行う②
8	研究の進行 4	研究テーマに沿って主体的に資料収集、分析を行う③
9	研究のまとめ 1	データの分析、整理
10	研究のまとめ 2	データの分析、整理、まとめ
11	研究抄録の作成 1	研究を抄録にまとめる①
12	研究抄録の作成 2	研究を抄録にまとめる②
13	特論発表会事前指導 1	プレゼンテーション資料作成
14	特論発表会事前指導 2	プレゼンテーション・リハーサル
15	研究発表会	プレゼンテーション・講評

科目名	特別研究	ナンバリング	HP24-IS-06-4
担当者氏名	金岡 敬子		
授業方法	その他	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力) 獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。
 特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取り組みを期待したい。

《授業の到達目標》

- ① 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
- ② 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができる。
- ③ 図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《成績評価の方法》

- 1. 提出された研究論文あるいは研究制作 80%
 - 2. 取り組み態度 20% ループブックで評価します。
- 評価は、指導教員が行う。
 《学生へのフィードバック方法》
 課題提出後に検討会を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス。研究進捗の確認と今後の展望。
2	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
3	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
4	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
5	研究論文、研究制作の進行	第3回中間報告
6	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
7	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	第4回中間報告
11	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	まとめ	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・ビジネス・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生活と科学	ナンバリング	MB24-GE-13-2
担当者氏名	有吉 邦江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A12-99 (思考力・判断力・表現力) 論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ○ A13-105 (主体性・多様性・協調性) 高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。		

《授業の概要》

普段何気なく過ごしている生活における科学的側面を理解する。また、科学的思考をもって生活できる能力を身につける。

《テキスト》

市販テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

横川公子ほか「生活を科学する」(光生館)
 額綱守「楽しく学ぶ 暮らしの化学」(化学同人)

《授業の到達目標》

- ①生活と科学の関わりについて理解できている。
- ②生活するうえで、科学的思考が身に付いている。

《授業時間外学修》

事後学修：配付資料の要点整理をしておくこと。(20分程度)

《成績評価の方法》

- ①期末試験(70%) ②平常点(30%) 提出物、小テスト等
- 《フィードバックの方法》①期末試験(60分、講評30分) ②授業開始前の小テスト終了後解説

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	物質科学の基礎	単位の由来、物質の成り立ちなど、物質科学の基礎を振り返る。
2	清潔さの科学	石けん、洗剤などの科学について理解する。
3	金属の科学	金属の性質や用途などについて理解する。
4	いのちの科学1	染色体を構成する核酸の構成、仕組みなどについて理解する。
5	いのちの科学2	体を守る免疫のしくみについて理解する。
6	エネルギーの科学	化石、原子力、自然などのエネルギー資源と課題などについて理解する。
7	日用品の科学	電子レンジなど日用品の科学について理解する。
8	高分子の科学	合成繊維、プラスチックなどの成分や性質などについて理解する。
9	自然の科学	災害からみた日本の自然について理解する。
10	色と光の科学	発色の仕組みや感じ方などについて理解する。
11	おいしさの科学	おいしさの感じ方などについて理解する。
12	においの科学	においの感じ方、香り成分や作用などについて理解する。
13	化粧品の科学	化粧品の成分や作用などについて理解する。
14	演習 1	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。
15	演習 2	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生命倫理	ナンバリング	MB24-GE-16-2
担当者氏名	新谷 奈苗、室津 史子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能) 人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input type="radio"/> A12-137 (思考力・判断力・表現力) 自分自身や他者の心理や行動について理解し、適切な行動ができる。 <input checked="" type="radio"/> A13-140 (主体性・多様性・協調性) 社会人として必要な規律性、倫理観を持って協調できる自己管理能力を身につけている。		

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積している。
 本授業では、生命に携わる専門職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を修得するために、事例やワークを通して学びを深める。

《テキスト》

兄玉 聡「マンガで学ぶ生命倫理」(株)化学同人

《参考図書》

村上 喜良【著】
 勁草書房 ISBN-13 978-4326101818

《授業の到達目標》

- ① 専門職者に必要な倫理原則や生命にかかわる倫理的課題がわかる。
- ② それぞれの倫理的課題を踏まえ、患者・家族の置かれている状況・特徴がわかる。
- ③ 自身のいのちと死生観について自分の考えを語るができる。

《授業時間外学修》

- 事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理する。(30分)
- 事後学習：授業の内容を振り返り、理解が不十分だった部分について、テキストや文献を見直し理解につなぐ。(30分)

《成績評価の方法》

- ① 試験70%
 - ② レポート30%
- 《試験のフィードバック方法》
 試験後に、正解できなかった問題について解説を行う。

《備考》

- ・ 倫理教育について教授経験のある教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス/生と死を考える	授業の概要と進め方 いのちとは何か、いのちの尊厳、死とは何か
2	倫理とは何か	生命倫理の定義、倫理と道徳の違い、生命倫理の歴史、生命倫理と医療倫理
3	医の倫理とは	ヒポクラテスの誓い、倫理的ジレンマ、パターンリズム
4	病いをもつ人の心理	健康と病気、病との共生、がん告知、セカンドオピニオン、インフォームドコンセント、死にゆく人の心理
5	生命の終わりをめぐる諸問題 ①	ターミナルケア、人生の最終段階における意思決定、看取り
6	生命の終わりをめぐる諸問題 ②	尊厳死、尊厳死許容の原則、リビング・ウィル、グリーフケア
7	生命の終わりをめぐる諸問題 ③	安楽死、安楽死の分類、安楽死許容の原則
8	現代の諸問題 ①	認知症者の心理
9	現代の諸問題 ②	認知症者の事例を用いて、認知症者へのケアと尊厳を考える
10	現代の諸問題 ③	人工妊娠中絶、中絶をめぐる法的問題/こどもの権利、赤ちゃんポスト
11	現代の諸問題 ④	出生前遺伝的検査・遺伝子診断や治療に関する倫理
12	現代の諸問題 ⑤	人へのクローン技術応用に関する倫理、iPS細胞、ES細胞、再生医療研究と倫理
13	現代の諸問題 ⑥	脳死による臓器移植と倫理
14	現代の諸問題 ⑦	生体臓器移植の現状と倫理
15	まとめ	事例を用いて生命倫理学を考える

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ	ナンバリング	MB24-GE-20-2
担当者氏名	新谷 奈苗、永岡 裕康		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 <input checked="" type="radio"/> A12-99 (思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 <input type="radio"/> A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 <input type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。		

《授業の概要》

これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

働く女性として身につけておきたい知識、技術、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。

加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）

事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《成績評価の方法》

適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。

《学生へのフィードバック方法》

授業内で説明する。

《備考》

対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する可能性がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・企業を知る①	サービス業を知る
2	企業を知る②	製造業を知る
3	企業を知る③	行政を知る
4	企業を知る④	医療法人を知る
5	働く人の安全と健康	働く人の安全と健康を守る組織の体制（労働災害・KYT活動・職業病）
6	働く女性の健康	働く女性の健康管理（定期健康診断・がん検診・メンタルヘルス）
7	労働法規	労働基準法、労働安全衛生法、女性の健康関連法規
8	家政学①	家政学を学ぶ意義
9	家政学②	家庭の経済
10	家政学③	食生活（食の安全）、食文化、住居学
11	家政学④	教育、子どもと家族
12	家庭看護学①	健康に生活を送るための管理
13	家庭看護学②	救急時の対応（演習含む）
14	家庭看護学③	西洋医学と東洋医学の活用
15	まとめ	各学科のまとめ、全体まとめ

科目名	ボランティアワークⅡ		ナンバリング	MB24-GE-22-2	
担当者氏名	吉村 真奈美				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 <input type="radio"/> A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 <input checked="" type="radio"/> A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにするものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

- ①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。
- ②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

- ①活動報告書 30%
 - ②ボランティア活動時間 70%
- 《成績のフィードバック方法》
活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房、岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部、田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく(10分程度)。
事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を記入する(30分程度)。
定期試験期間中に、書類をまとめて提出する。

《備考》

活動時間の累計は、人間生活学科と食物栄養学科は卒業年度の1月末日、臨床検査学科は12月末日までの活動時間とする。受け入れ先の感染防止対策を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
3	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
4	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
5	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
6	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
7	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
8	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
9	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
10	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
11	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
12	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
13	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
14	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
15	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施